

目的

- 在宅医療においては、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハビリ関係等の医療関係職種や、ケアマネジャーなど介護関係職種を加えた多職種が、お互いの専門的な知識を活かしながらチームとして、患者・家族の生活を支えていくことが重要。
- 本研修は、「市町村が在宅医療と介護の連携に主体的に取り組む重要性を理解する」とともに、「地域ごとに**多職種連携ネットワーク**が構築」され、将来的には「**市町村等が研修会参加者と連携を図り、地域ごとに研修会などを開催する**」ことを目標に実施するもの。

対象者

地域で在宅医療・介護連携の中核を担う人材

- 市町村職員、保健所職員
- 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャー、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士 など

25年度

- ・地域リーダー研修受講者など、県内全域の対象者約300人が一堂に会し、研修を実施。
- ・ディスカッションでは医療圏別に10数名のグループとなり、地域課題の抽出と研修会の開催案作成を実施。



さらにステップアップ！

26年度

- ・地域性を重視し、県内4地域に対象を分けて研修を実施。
- ・より実践的な内容で研修を実施。